

富良野市立富良野小学校

指定年度：H29～

児童数：409名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

① 教育理念や経営方針の浸透

令和2年度の学校方針において、教育理念や経営方針を明確に位置付け、年度始めに教職員に示すことでゴールに向かって教育活動を推進していくことの共通理解を図った。

また、朝の打合せや職員会議等の機会を活用し、適宜、経営方針や理念を説明するなど、浸透を図ってきた。保護者や地域住民へは、学校だよりやホームページを活用し、目的や目標、方策等の共有化を図った。

さらに今年度は、コロナ禍における学びの保障や教育活動の推進、行事の変更等を、保護者に学校文書で配付し、校長の思いを伝えてきた。

学校力向上委員会を機能させ、日常業務や教育活動と方針・重点とを関連付けた協議を行うなど、常に学校改善を意識して取り組んできた。

② コミュニケーション・人材育成

日頃から、人と人や物との「かかわり」や「つながり」が大事であるということを教員に話すとともに、教頭を中心に温かい人間関係を基盤とした職員室づくりに努めてきた。

本校は、初任段階教員2年次と3年次の教員が2名ずつ4名いることや、20代後半から30代前半の教員も多いため、人材育成に力を入れてきた。

具体的には、北海道教員育成指標を浸透させ、キャリアステージに応じた研修を充実させるよう働きかけた。

また、教頭や主幹教諭、研究部長を中心に、メンター研修やジョブ・シャドウイングを企画・運営・実施するなど、若手教員に対し、授業や校務について指導助言する機会や場を多くもった。

③ 学校マネジメント（検証改善サイクル、カリキュラム・マネジメント等）と働き方改革

各種調査等の検証改善を位置付けた学校改善プランを策定し、検証及び改善を行った。

校内研修を活性化し、日々の授業改善に努めた。成果と課題について、地域連携研修会を開催し、学びを深めた。

各教科の単元を一つにまとめた単元一覧表を作成し、各種調査結果や単元テスト等の結果の反映や、指導時数や指導形態の変更等を書き込むなど、教員のカリキュラム・マネジメントの意識を高めた。

働き方改革については、PCによる教職員の勤怠管理を行い、在校等時間の意識化を図った。



（地域連携研修）

2 取組の成果と課題（□：成果 ■：課題）

□管理職による日常的な授業参観を通して指導を行うことで、教員の資質・能力の向上が見られた。また、主幹教諭や研究部長等による日常的なかかわりの中で、授業実践や指導方法についての話題が多く、学校全体に学び合う素地ができています。

□単元一覧表を活用した時数や指導形態の変更等の書き込みは、学習内容の定着度合いや時数の進行管理等、マネジメントを強く意識させることにつながっている。

■時間外勤務の縮減は図られてはいるが、月によっては、45時間を超えて勤務する教員が4割近くいる（11月末現在）。業務の効率化等、業務改善をさらに進める必要がある。